

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	中野島学童ホール
取組の名称	放課後児童健全育成事業を基盤とした地域との連携事業
実施場所	中野島学童ホール（川崎市多摩区布田3-17-2）
対象地域	川崎市多摩区中野島周辺
対象地域の特色・課題	<p>梨畑が点在し、多摩川も流れるなど比較的に自然が多い地域である。一方で多摩区の子どもがいる世帯に向けたアンケートによると小学校入学に向けて不安なこととして「通学路の安全対策」や「子どもの放課後の居場所」を挙げる人が全体の約半数に上っている。更に、地域活動などに参加したことがないと言う人が約4割にのぼる。特に中野島地区では全世帯の9割以上が核家族世帯であるため、地域や近所とのつながりが希薄な傾向にある。</p> <p>（参考）多摩区中野島カルテ</p>
取組の趣旨・目的	<p>① 学童保育（中野島学童ホール）小学生、及びその親に対し、放課後や長期休暇時の安心・安全な居場所を確保すること。</p> <p>② 地域連携 子ども食堂や工作教室、こどもまつりなどのイベントの開催により、地域との交流、子どもと大人、異世代との交流などで地域のネットワークを作ること。</p>
実施内容・実施スケジュール	<p>① 放課後児童支援員のもと、小学校1~6年生（特別支援学級児を含む）を対象に、放課後学習（学校の宿題、自主学習）、外遊び・室内遊び、おやつ作りなどの集団生活から人間関係の構築力や自主性、社会性を養う支援をおこないました。また、登校日は放課後、夏休みなどの休業日は朝から開室しました。</p> <p>②-1 子どもとその保護者や若者、地域の方々が気軽に立ち寄れる場所として食事の提供を、年間6回（概ね2ヶ月に1回）おこないました。</p>

	<p>②-2 学童保育の人的資源を基盤とし、幼児から楽しめる簡単な工作教室を年間で2回おこないました。</p> <p>②-3 近隣地域の子どもやその保護者が楽しめ、交流できるイベント（模擬店、ゲームコーナー、太鼓演奏、フリーマーケットなど）を10月初旬の日曜日に下布田小学校の校庭（悪天時は体育館）で開催しました。</p>		
参加者の年代	<p>① 小学生</p> <p>②-1 幼児~大人</p> <p>②-2 小学生とその保護者</p> <p>②-3 幼児~大人</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>① 39人</p> <p>②-1 30人</p> <p>②-2 8組程度</p> <p>②-3 なし</p>
実施頻度	<p>① 週5日以上</p> <p>②-1 6回/年</p> <p>②-2 2回/年</p> <p>②-3 1回/年</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>① 252日</p> <p>②-1 6日</p> <p>②-2 2日</p> <p>②-3 1日</p>
スタッフ体制	<p>① 常勤支援員1名、非常勤支援員（有償ボランティア）1~2名（学校休業日は増員対応あり）</p> <p>②-1 学童保育を利用中の保護者、及び卒業生の保護者5名程度</p> <p>②-2 支援員、及び学童保育を利用名中の保護者2~3名程度</p> <p>②-3 支援員、及び学童保育を利用中の保護者20程度のほか、近隣の子育て支援団体のスタッフや利用者</p>		
連携する団体・連携の手法	<p>① 他の学童保育実施団体と定期的に会合をおこない、継続すべき点や改善すべき点などの情報交換をおこなうほか、子ども同士の交流もおこないました。</p> <p>また、教育委員会の学校給食の未利用食品連絡にも登録し、フードロスへの取り組みもおこないました。</p> <p>②-1 かわさきこども食堂ネットワークと連携し、情報交換をおこないました。また、中野島町会と連携し、掲示板や回覧板で告知しました。さらに、小学校にもチラシの配布で協力いただきました。</p> <p>②-2 中野島町会と連携し、掲示板や回覧板で告知しています。また、小学校にもチラシの配布で協力いただきました。</p> <p>②-3 近隣の諸団体（ボランティア団体、太鼓団体、社会</p>		

	<p>福祉法人など) や川崎市学童保育連絡協議会と連携し、イベントを運営しました。中野島町会と連携し、掲示板や回覧板で告知しました。また、小学校や近隣の保育園にもチラシの配布で協力いただきました。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>① 保護者の就労を支援するとともに、児童(特別な支援を要する児童を含む) および保護者にとって、安心・安全に過ごせる居場所を確保することができた。さらに、6年間の集団生活を通じて、年齢の異なる児童や大人(保護者、支援員、地域の関係者など) との人間関係の構築、集団生活の送り方、地域との関わり方など、現代社会を生きるうえで必要な力を身につけることができた。</p> <p>② 子どもや若者が世代を超えて地域の方々とふれあい、顔見知りになることで、地域ぐるみで児童とその保護者を支え合う基盤となるネットワークを構築することができた。</p> <p>また、異なる団体と連携することにより、立場の異なる多様な方々から助言を得られるとともに、多様な価値観や経験に触れる機会を得ることができた。</p>